

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ②ライフ分野 (6/10)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ 目標に向けた取組の進捗	Ⅱ 支援措置の活用と地域独自の取組の状況	Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
柏の葉キャンパス「公民学連携による自律した都市経営」特区 (千葉県柏市)	3.7	4.4 <u>進捗度</u> ・各主体の参画による活動の活性化 122% ・新ビジネス創造と地域経済の活性化 102% ・AEMSを活用した環境配慮型都市の確立 250% ・先進的・包括的健康・介護サービス体制の構築 77% ・虚弱予防活動の展開 111%	3.2 <u>規制の特例等</u> ・訪問リハビリテーション事業所整備推進事業 ・歯科衛生士等居宅療養管理指導推進事業等 <u>地域独自の取組</u> ・事業推進に向けたプロジェクト連携会議の開催等	3.6	・ライフ・イノベーションの課題に関しては当初から一貫して産官学民で真剣に取り組む姿勢が見えない。別のプログラムから立ち上がったフレイルサポーターの登録数を目標に加えるなど、断片的な構成であり、現段階に至ってもトータルヘルスケアステーションのビジョンが見えず、戦略とスキームが明確でない。 ・3軸の1つを構成する「地域の健康・介護」の領域での牽引力が弱い。リーディング事業者の設定や組織化がうまく行われていないことが原因とみられる。 ・住民主体のまちづくりプロジェクト施設管理、ベンチャー支援が順調に進展している一方で、トータルヘルスケアサービスの供給は新型コロナウィルスの影響を考慮しても計画通りとは言えない。地域のニーズや地域のサービス供給体制の現状に基づき本プロジェクトで供給するサービスを選択することも必要ではないだろうか。 ・新型コロナ禍における通所系の課題を踏まえ、訪問リハの独自の役割や有効性を考慮したトータルヘルスケアの視点が必要ではないか。 ・評価指標(1)～(3)の各事業については方向性、事業進捗とも順調なものとして評価できる。 ・数値目標(3)「駅前周辺街区におけるCO2排出量削減率」はきわめて良好な成果を上げているが、世界のCO2排出量削減率を鑑みて目標の見直しが必要ではないか。 ・評価指標(4)「先進的・包括的健康・介護サービス体制の構築」及び評価指標(5)「フレイル予防サポーター活動数」については、コロナウイルス感染拡大の現状とポストコロナの状況を見据え、事業進捗や目標の見直しが必要ではないか。 ・数値目標(4)－②「特区事業所の訪問リハビリテーション及び介護予防訪問リハビリテーション年間実施件数」の実績値が減少している理由として、事業所の撤退が挙げられているが、その理由についてより具体的に要因分析を行い、改善方策の検討を行う必要があるのではないか。